
もう何もいない。

kaeri

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう何もいない。

【Nコード】

N6669L

【作者名】

kaeri

【あらすじ】

ゆりはちよつとしたことがきっかけで、食の地獄へと落ちていく。

体重32kg。身長160cm。現在の私はこんな感じだ。棒のような手足、まったいらな胸。女の曲線なんか一個もない。唯一女だとわかるのは、腰まで伸びたロングヘア。

半年前までの私はこんな骸骨じゃなかった。細みな部類には入るが今より10kg以上は体重はあった。自分でもびっくりしている。

きっかけはちよつとしたダイエットだった。

「ゆりちゃん最近ちよつとふつくらしたね。」

「えっ、そうかなあ・・・」

こんなこといわれたのは生まれて初めてだった。いつも細いね、スレンダーだね、っていわれているのに・・・

その日から私はダイエットに励んだ。自分はめんどくさがりだから、食事制限で減らすことにした。3食春雨スープで2週間であつという間に体重はもとにもどった。

でも、すっかり胃が小さくなってしまったのかあまりお腹がすかなくなった。食べ物に興味もわなくなった。前は大好きだったケーキ、アイスクリーム、お菓子はいっさい欲しなくなった。というかそんなものなくても私は生きてける。お金の無駄。私はおにぎりとサラダと水分があればいい。

そんなことしていたら、半年後にはこんな体型になっていたのだ。

「ゆりちゃん、どうしたの？なんかあつた？」

「お前、変な薬やつてるんじゃないよな？」

友達や親からはこんなことばかりいわれる。

てゆうか、私にも悩みなないし、薬もやってないんですけど。ただね、いらぬものどんどん捨てていったらこうなっちゃったわけ。気分は超ハッピーでいたって健康体なんです。

はじめはダイエットだったんだけど、今は肉がなくなっていくことに気持ちが軽くなっていくのがわかる。もう何も考えたくない。

だから、今の私の楽しみは、棒のようにやせ細っていく手足を観察するのが日課だ。けっして私はおかしくない。いわばこれは修行なのだから。

（後書き）

すべての摂食障害の方がこつこつ考えの方とは限りません。物語と
してお読みください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6669/>

もう何もいない。

2010年10月14日15時24分発行